

窓から宍道湖を臨み、広がる青空。

緑に恵まれた玉湯の丘で期待に応える病院を目指します。

No.41  
2015年 秋号

JCHO玉造病院広報誌

たまつくり

Now ナウ



職員による心肺蘇生訓練

## CONTENTS

最新医療レポート .....	2・3
義肢室って何するところ? .....	3
TOPICS .....	4・5
コツコツ通信/今月のレシピ .....	6
病棟紹介/新職員紹介 .....	7
INFORMATION .....	8

人工関節手術件数 9,176件 (9月30日現在)

## 理 念

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこなわず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。



Japan Community Health care Organization JCHO / ジェイコー  
独立行政法人 地域医療機能推進機構

玉造病院

# 低侵襲手術 頸椎椎間板ヘルニアの



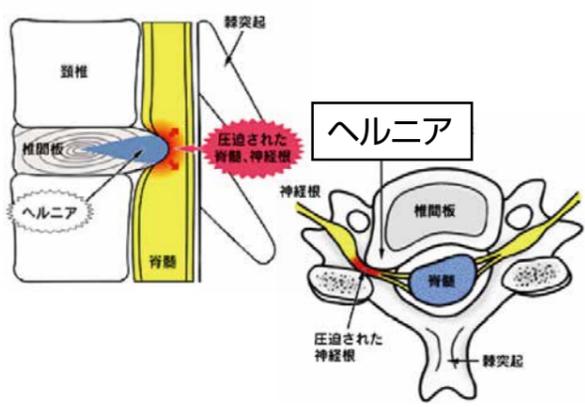
整形外科医長  
神庭 悠介

頸椎椎間板ヘルニアは、(図1)に示すように頸椎の骨の間に存在する椎間板が後方に突出し、脊髄を刺激することで、様々な神経症状を呈する疾患です。脊髄の中央部分が強く圧迫されると、握力低下や手指の細かな動作に障害が現れ、字が書きにくくなったり、衣服のボタンの留め外しが難しくなる、歩行時にふらつくなど、重度の神経症状(脊髄症状)が出現し、早期に手術が必要となることがあります。一方、脊髄から枝分かれした神経根が圧迫されると、頸部痛と片側の四肢にのみ症状が出現します(神経根症状)。神経根症状は、頸椎の位置や動きで変化する四肢の痛み・しびれが特徴的で、まれに運動麻痺を生じることがあります。

椎間板ヘルニアで脊髄症状が出現することは稀ですが、神経根症状は、健康な若い方でも突然発症することがあります。神経根症状の治療は、主に保存的治療が行われます。すなわち、頸椎カラーなどによる頸部の安静と、消炎鎮痛薬やステロイド薬などの薬物治療が基本となります。疼痛コントロールが困難な場合や、長期間保存的治療で改善が得られなかったり、運動麻痺が進行する場合のみ手術を検討することになります。

手術法は、従来頸椎の前方からアプローチする前方法が主流でした。前方法は椎体・椎間板を前面から一部切除しながら脊髄・神経根など神経の圧迫原因に到達し、これらを取り除き、切除により生じた椎体・椎間板の空間に骨盤の骨を移植して固定します(図2)。しかし、前方法は頸椎前方にある気管や食道・頸動脈などの重要臓器を避けながら展開するため、危険な合併症が万一起る可能性があります。また移植した骨がずれて外れないように、1カ月以上の入院と3カ月以上の頑丈な頸椎カラー固定が必要となるため、社会復帰が遅れてしまうデメリットがありました。

図1 頸椎椎間板ヘルニア (右)縦断面 (左)横断面



そこで我々は、2011年から頸椎椎間板ヘルニアの神経根症状に対して、椎間孔開放術を導入しました。この方法は、ヘルニアにより圧迫されている神経根の後方の骨を1円玉位の大ききでくり抜き、神経根の圧迫を取り除く方法です(図3)。頸椎の支持性に関与する椎間関節を一部削りますが、削る割合は小さいので、術後も頸椎が安定しており、軟らかな頸椎カラーで十分対応できます。手術創は約5cm程度で、出血も少ない手術のため、当院では術後3週間で退院となり、早期社会復帰が可能となります。これまで25症例に椎間孔開放術を行ってきましたが、全例目立った合併症もなく成績は良好です。

この椎間孔開放術は、上肢の痛みは比較的速やかに改善しますが、しびれが主体の症例や、重度の麻痺症状の症例には効果が得られないこともあります。頸椎椎間板ヘルニアの患者様は非常に多いのですが、実際に手術が必要となる患者様は20~30人に1人程度の割合です。

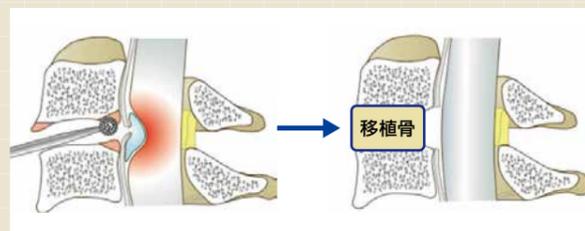


図2 前方固定術 (右)前方からヘルニアを取り除き、(左)生じた空間に腸骨を移植する。

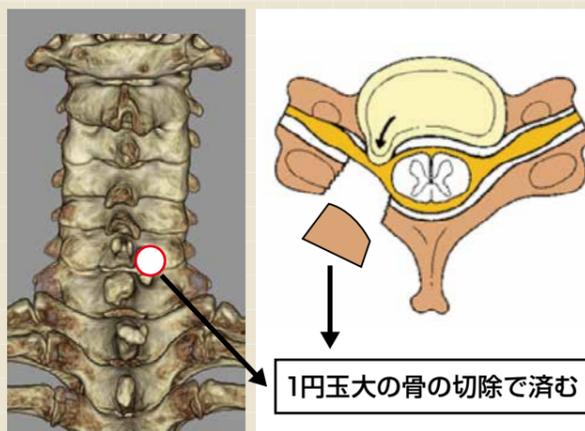


図3 (右)術後の頸椎後方3D画像 ※赤丸部が骨を削った部分 (左)横断面の模式図

## 義肢室って何するところ?



義肢装具士  
生島 隆弘

よく、技師? 義歯? などと間違われますが、みなさんにはあまりなじみのない部署だと思います。それもそのはず、病院や診療所など医療機関に「義肢室」のような補装具製作施設があるのは全国的にみても非常に稀なことなのです。一般的には、院外から補装具製作業者が週数回出入りしているのですが、当院では義肢室という部署があるので製作からアフターフォローまで迅速に対応できるなどのメリットがあります。

補装具を医師の処方のもと、個々の患者様の身体的特徴や形状を観察・把握して採型・製作・適合するのが私たちの仕事です。

義肢室で取り扱っているものでよく知られているのはコルセットやサポーターがあります。しかし、これらはごく一部で他にも病気やけがで手足を切断された方に使用する義肢(義手・義足)、骨や筋肉・関節・神経疾患などに使用する装具などもあります。

現在、男性2名・女性1名、合計3名の義肢装具士が在籍しており、当院で処方される補装具はすべて義肢室で製作されています。また、障害者総合支援法(障害者手帳)や労災保険法・船員保険法による院外処方の補装具製作も行っています。

補装具を個々の患者様の身体に適合させたり、用途・要望に対応することは非常に困難なことも多くありますが、その分、自分たちが考え・工夫して製作したものが患者様に喜んでもらえる時にはやりがいを感じることができます。

私たちは、これからも「病院に所属する義肢室」という特徴を活かし、患者様の気持ちになって迅速・丁寧な対応で満足度の高い補装具を提供できるように日々がんばっていきます。



## 緊急事態への対応 ～心肺蘇生訓練～

麻酔科 部長  
佐々木 晃



病院では入院・外来患者だけでなく、家族、見舞い客も来院し、時として意識消失や心肺停止といった緊急事態が発生します。その際、速やかかつ適切な対応が、病院職員には求められます。そのため、組織として対処システムの整備と定期的な訓練の実施が必要です。CPR（心肺蘇生法）訓練やシミュレーション訓練等には種々のものがありますが、病院内の全職員を対象に、最低でもBLS（一時救命処置）とAED（自動体外式除細動器）の訓練は実施する必要があります。

今や防火訓練は毎年実施され、町中いたるところに、AEDが設置されている時代です。病院職員がAEDを使えないとなると困ります。そこで、救急医療の経験者である私が、院内講習会の講師という大役を任命され、CPR訓練も毎年実施することとなりました。



早速7月28日と8月5日、全職員の参加を目標に、CPRの訓練が行われました。その時の写真を何枚か供覧しますが、この二日間で、病院長、副院長をはじめ当院職員80名の参加がありました。松江市消防本部からも、大澤救急救命士ら

の協力をいただき、普段なじみのないCPR訓練の開始です。CPRの目的は、何といても機能停止した自己心拍の代わりに、全身に血液を送るため、有効な胸骨圧迫をすることです。成人



の胸を5cm以上押し込むわけです。相当な体力が必要なことを、皆様身をもって実感されたことでしょう。若い方ならまだしも、年配の方には相当こたえます。何を隠そうこの私も2分間の胸骨圧迫でへとへとです。今回の参加者は年配の方が多く、「手抜きとは言いませんが力を加減してください。」と言いましたら、大澤救命士に、「折角の機会なので精一杯しましょう。」と、諭されました。AEDについても、ショックボタンを押すと、実際は傷病者の体が跳ねますが、訓練では人形は跳ねません。実感が湧きにくいですが、体験者の談話に「CPR講習会に参加した経験があり、実際にAEDが使えました。救命できてよかったです。」とあるように、訓練を重ねることで、町中でAEDが必要な場面に遭遇した時、必ず役立つことでしょう。

## 地域性を活かした院内デイケアの取り組み

東3階病棟 認知症看護認定看護師  
荒木 さおり



今回は、私の所属している東3階病棟で行っている院内デイケアの取り組みをご紹介します。

東3階病棟は回復期リハビリテーション病棟で、急性期病院から受け入れた患者様に対して積極的に心身機能回復のための余暇活動や退院後の生活を見越した日常の訓練を提供する役割があります。そこで、脳血管疾患患者様や認知症をもつ高齢患者様を対象に、平成26年6月より山陰地方の習慣であるお茶事を取り入れた院内デイケアを開始しました。院内デイケアでは毎日15～16時に対象となる患者様をデイルームへお連れしてお茶を提供し、患者様同士やスタッフとの会話、音楽鑑賞、習字などの余暇活動を実施しています。



院内デイケアの参加者は1日平均4～5名です。参加者からは「来るのが楽しみ」「お茶やコーヒーがおいしく飲める」などの声が聞かれ、くつろいで過ごしている様子が見られます。デイルームで親しくなった患者様同士は「〇〇さんは来ているの?」とデイルームで顔を合わせることを心待ちにしている様子です。退院した患者様がゲストとして登場し、アコーディオン演奏を披露されることもありました。また、デイルームの壁には季節にあったレイアウトや習

字や折り紙の作品を飾ったり、テーブルには季節の花などを飾ったりすることで、参加者が季節感を感じられるように工夫しています。スタッフからも「病室ではわからない患者様の一面がわかる」「楽しい雰囲気のなかで水分摂取も進む」などの気づきが聞かれています。



患者様が病室という治療の場から離れて気分転換を図ることは、リハビリ意欲の向上やコミュニケーション能力向上の効果があると考えます。院内デイケアに関わるスタッフにとっては、患者様の個性や持てる力を知る機会になり、患者様個人を大切にしたい関わりや尊敬の気持ちを培う場になっていると考えられます。回復期リハビリテーション病棟においては、その人の持てる力を引き出す工夫が重要です。今後の課題として、患者様の持てる力を引き出せるような余暇活動の工夫と、より日常生活に即した時間と空間を提供していくために、患者様の目線でデイルームの環境を見直し、改善していく必要があると考えています。対象となる患者様は他病棟にも入院しておられます。今後は他病棟や他職種へも院内デイケアへの理解を浸透させ、病院全体の取り組みとしていきたいと考えています。

## 今年もやってきました! ~第32回松江市民レガッタ~

第32回松江市民レガッタが7月25日、26日の2日間にわたって開催されました。

今年で4年目の参加となる玉造病院・たまちゃんレガッタクラブから、医局中心チームの膝組、股組、リハビリチームの腕組、脚組(男女ミックス)の計4艇が出走しました。医師や看護師、リハビリなど部署の異なるメンバー同士、この日のために日程を合わせながら何度も練習を繰り返してきました。



1日目の予選では、膝組と脚組が1着でゴールし、一足先に準決勝へ駒を進めました。2日目の敗者復活戦では腕組が1着でゴール。3チームが準決勝へ進出!

2日間とも35度を超える猛暑の中、各艇熱戦を繰り広げました。強豪揃う準決勝へ挑んだ3チームは健闘の末、惜しくもあと一步決勝進出まで至りませんでした。チーム丸となって頑張りました。

年々、着々と力をつけて成長中のたまちゃんレガッタクラブ、これからも応援をよろしくお願いします!

## 「関節と骨の健康フェスタ」を開催しました。

去る9月13日(日曜日)に市民公開講座「関節の骨の健康フェスタ」を開催いたしました。この市民公開講座は玉造病院が地域の皆様への健康福祉活動の一環として毎年開催しており、今回で第8回目となります。当日は開場前より沢山の方がお待ちで皆様の健康への関心の高さを改めて感じました。

健康フェスタは、今回も当院1階ホールで健康相談や各部門の展示・検査を、会議室では講演会を行いました。1階ホールの健康相談コーナーでは、当院の医師が来場された方の色々な相談にその場でお答えをさせていただき大変好評でした。展示コーナーでは人工関節の展示に加え、今回から、新しく口腔外科・手術室・義肢室の展示が始まりました。普段は目にする事のない、歯科のインプラントや各種の人工関節、無菌手術用術衣を見て、来場された方が質問されたり、医師や看護師の説明に熱心に聞き入っておられました。



また、会議室では「メタボリックシンドロームについて(落合部長)」と「人工関節と日常生活(小谷副院長)」の講演を行いました。平均寿命が延びていくなかで、健康で自立した生活(健康寿命)を維持するための内容で、参加された方々も熱心に聞き入られていました。講演の後は、会場の皆様と転倒予防の為に脚力を維持するロコトレを行いました。ロコトレは簡単な運動ですが継続する事が肝心ですので、ご自宅でも続けていただき、運動機能の低下を防ぎ健康寿命を延ばしていただきたいと思っております。



最後に今回ご来場いただいた方のアンケートをまとめてみると「骨密度と動脈硬化がわかって良かった」「食生活に気を付け、健康寿命を守る、大変良い講座でした」「曖昧だった膝関節の事がよく分かった」「今後の参考になった」等々沢山のお言葉をいただきました。これからも今回頂いたお言葉を励みに、地域の皆様の自立した生活(健康寿命)のお役に立てるよう、様々な形で健康福祉活動を進めていきたいと思っております。

## あ と が き

テレビをつけると豪雨災害のニュース特番が放送されていました。番組を見ていると大規模(想定外)であった事もさることながら、自分は大丈夫だと油断せず大事に「備える事」の大切さを感じました。これは、災害だけでなく怪我や病気についてもいえる事かと思えます。歳を重ねても、いつまでも健康で元気に過ごせる様に、日々の生活(食事や運動)に気を配る事が、人生の災害(怪我や病気)への備えになるのではと思います。はたして自分は「想定外」にどんな備えが出来ているのかと考えひとしきりでした。

ホームページから  
たまつくりNOWがダウンロードできます。  
<http://tamahosp.jp>

■編集・発行責任者 院長/三河義弘  
■広報/小谷博信



JCHO玉造病院  
〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2  
TEL.0852-62-1560

## 患者様の権利

あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教、その他の個人的な背景に拘らず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。  
あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。  
あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また、医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。  
あなたのプライバシーと個人情報には完全に保護いたします。